探訪 近代の民家

京・近江

13

自然と一体 曲線の美意識

木島櫻谷旧邸

（京都市北区）

明治から昭和にかけて活躍した日本画家・木島櫻谷の旧邸（櫻谷文庫、国登録有形文化財）は、京都市北区のかつて「衣笠絵描き村」と呼ばれた一角にある。和館と洋館、画室からなり、そこには仕事一筋に打ち込んだ櫻谷の美意識が刻まれている。

櫻谷は早くから非凡な才能を発揮し、竹内栖鳳と京都画壇の人気を二分した。夏目漱石に絵を酷評されても無視し自らの世界を深めていった孤高の画家。深い洞察力と細やかな愛情に裏打ちされた、観る者の心に安らぎを与える作品が多い。

絵描き村に

旧邸は1913（大正2）年の建築。この地に櫻谷が居を移して以来、金島桂華、山口華楊、小野竹喬、福田平八郎ら多くの画家が移り住み、絵描き村が出来上がっていった。

母屋の和館は入り母屋造り木造瓦ぶきの2階建て。建築面積は195平方㍍。画家の家には珍しい薬医門をくぐり抜け玄関に向かうと、建物のある特徴に気づく。荒々しいちょうな削りの柱が各所に用いられ、竹材が多く使ってある。そして木や竹が本来持っていた形状をできるだけ生かすようにしてある。

「この家はRの美学というか、曲線にこだわってつくられている」と櫻谷文庫理事長の西田理さんは話す。たとえば屋根自体が丸みを帯びているほか、窓枠の角もすべて丸く削られている。仏間の欄間も東山三十六峰をイメージし、稜線に沿ってくりぬくなど家のなかも曲線の造形であふれている。「理由は分からないが、よほどRが好きだったのでしょうね」と西田さん。

外に開かれ

1階は居間、仏間、食堂、台所など一般の家とさほど変わらないが、2階に上がると雰囲気がまるで違う。部屋の真ん中に階段があり、壁は西側にしかない。廊下で囲まれた他の三方は外に開かれている。東は東山連峰、南に西山と天王山、北には衣笠山や比叡山が望める。まるで展望台なのだ。櫻谷はこの2階から見える景色をよく描いていたという。周囲の景色や自然と一体になった生活を望んでいたのだろうか。

和館の隣に建つれんが造りの洋館（建築面積107平方㍍）も「Rの美学」が貫かれている。断段しかり。部屋の隅々まで角のとれた造作が目立つ。同時に2階から望む畑や竹林を部屋の意匠に取り込み、周りの自然と一体となる雰囲気を演出している。

少し離れたところにある画室は外観は2階建てに見えるが平屋。天井は高く広さは80畳敷もあり、櫻谷の往時の仕事ぶりを推し測ることができる。

文・三谷 茂
写真・木原貞男

メモ　木島櫻谷旧邸（櫻谷文庫）　京都市北区等持院東町。市バス「北野白梅町」から徒歩約8分。市観光協会などとタイアップして期間限定の特別公開は行うが、一般公開はしていない。☎075(461)9395。

並んで建つ木島櫻谷旧邸の和館と洋館。和洋の対照が面白い

正面入り口にある薬医門。木の自然の形が随所に生かされいる

洋館の階段。曲線を意識した造りになっている

和館2階の座敷からは京都を囲む山々が望める

❷洋館2階にある応接間には周囲にあった竹林の風景を意匠に取り入れている　❸80畳の広さがある画室。今はサークル活動などに使われている

和館仏間には東山の山々を模した欄間がある

木島櫻谷旧邸
和館1階平面図

Mail to: info@oukokubunko.org　URL: http://www.oukokubunko.org　URL for smart phone: http://www.oukokubunko.org/sp